

河北町立小中学校整備について

近年の急激な少子化、子供を取り巻く教育環境の変化を踏まえ、令和4年5月に「河北町立小学校のあり方検討委員会」の答申を受け、町教育委員会は、これまでの検討の経過を尊重しながら、将来の社会の担い手である子供たちにとって、よりよい教育環境を構築することを目的として、令和6年10月に「河北町立小学校の整備に向けた基本方針」を策定しました。

基本方針に基づき、「河北町立小中学校整備委員会」において議論を重ね、河北町立小中学校整備基本構想・基本計画（案）を策定しました。

そのなかで、建設地、整備方法、建設条件、スケジュール等を以下のとおり検討しました。

- ・小中一貫教育を推進するため、河北中学校の校地に施設一体型の小学校・中学校の整備をすすめます。
- ・令和13年4月の開校を目指し、まずは小学校を整備し、既存中学校と接続します。
- ・中学校は改修を行ながら使用し、令和23年度開校を目安に中学校整備を想定します。

令和13年



令和13年4月開校の小学校整備

イメージ図

※こちらは、整備方法検討時のイメージ図であり、新しい学校の配置、形状等は今後の設計の段階で決定します。

令和23年



令和23年度開校目安の中学校整備

イメージ図

河北町立小中学校整備基本構想・基本計画（案） [概要版]

第1章 計画策定の背景

近年の急激な少子化により児童生徒数は減少傾向にあり、令和13年度には、児童400名程度、生徒330人程度となることが想定されています。

小学校	令和13年度 小中学校 児童生徒数見込み（開校時学年毎） (R7.5.1時点)						計
	R8入学生 6年生	R9入学生 5年生	R10入学生 4年生	R11入学生 3年生	R12入学生 2年生	R13入学生 1年生	
西里小	6	7	3	3	5	4	28
溝延小	10	6	9	0	3	6	34
谷地中部小	39	35	30	31	25	26	186
谷地南部小	19	22	22	23	14	23	123
谷地西部小	3	0	2	1	1	0	7
北谷地小	4	3	6	4	2	2	21
計	81	73	72	62	50	61	399
学級数	3	3	3	2	2	2	15

中学校	3年生	2年生	1年生	計	合計
河北中学校	109	126	98	333	生徒児童数 732
学級数	3	4	3	10	学級数 25

※令和7年度時点の「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」を基に、小学校は35人学級、中学校は40人学級とした場合

本町では、これまで第2次河北町教育振興計画にかかる基本目標の達成に向けて小中連携を図ってきました。この取り組みをさらに推進するために、小中一貫教育をより実践的に推進してまいります。

【小中一貫型小学校・中学校の整備】

- ・9年間を通じた系統的な教育を目指し、小中一貫教育を推進します。
- ・小中一貫教育により、交流促進と教育効果の向上等を図ります。
- ・小学校・中学校の文化を尊重し、施設一体型の小中一貫型小学校・中学校を整備します。
- ・施設一体型することで、物理的な距離が近くなり、児童生徒同士及び教員同士のより積極的な交流が可能となります。

基本構想

第2～3章 現状と課題／計画条件の検討

河北町立小中学校整備検討委員会（以下、「整備委員会」という。）において、最も広い土地を選定すべきであるという意見を踏まえ、候補地カルテを作成し、敷地面積、通学距離、安全性、都市計画、その他の5つの視点で用地の評価を行い、総合的に検討し、整備方法、整備スケジュール等をあわせて検討し、河北中学校校地を建設地と決定しました。

[5つの視点]

- ①敷地面積：小学校・中学校の校舎面積を充分に確保できるか
 - ②通学距離：既存各校の学区域からの距離について、極端な偏りが生じないか
 - ③安全性：水害や土砂災害の恐れがないか
 - ④都市計画：1か所に小中学校がまとまるのにふさわしい位置か
 - ⑤その他：財政他、町民への負担が大きくならないか
- 整備方法については、整備の基本方針、整備方法の検討方針を設定し、検討をしました。

[基本方針]

- ①統合小学校は、最短で令和13年4月に開校することを目指して整備する。
- ②小中一貫型小学校・中学校とし、小中連携・一貫教育を行いやすくする。

[整備方法の検討方針]

- ①統合小学校は、既存校舎を使用せず、新校舎として整備する。
- ②国庫補助を最大限に活用し、必要に応じてより交付税措置率の高い起債の利用等を検討する。
- ③令和13年4月に開校できる状態とする。

整備委員会における意見を踏まえ、整備方法、整備スケジュールおよび財政的負担を総合的に検討し、河北中学校校地に小学校を建設し既存中学校と接続するように整備します。

令和13年4月開校を目指し、まずは小学校を整備し、中学校については当面修繕等の改修を行いながら使用し、財政状況等を勘案しながら、統合小学校整備後に令和23年度開校を目指して中学校整備を想定します。

第4章 基本コンセプト

これまでの方針や目標を実現するため、下記の5つを基本コンセプトとしました。

- 1 河北町の小学校と中学校の学びを一つにつなぐ学校づくり
- 2 子供、教職員、地域の方々がいきいきと活動・交流できる、ゆとりある学び・育ちの場
- 3 一人一人の発達段階や特性に応じ、様々な学習の場・居場所を選べる環境
- 4 学校と地域の歴史・文化を継承し郷土愛を育む、子供たちの未来を創る学校
- 5 安全・安心で災害に強く、誰もが集う学校

基本計画

第5～6章 施設構成と面積／計画条件

小中学校の施設は、活動内容やスペースの位置づけに応じて、体格や発達段階、授業内容の違いに考慮しながら、小中連携・共用で利用できるようにします。

将来の中学校改築を想定し、基本設計において、特別教室の小中共用、職員室の連携や拡張・一体化等の可能性を検討し、具体的な計画を行うものとします。校舎の接続部は屋内化することを基本とします。

[施設整備面積（第3章から抜粋）]

普通学級数は、小学校 15学級、中学校 10学級とし、学級数を基に試算した必要面積を基本とすることで、国庫補助を最大限に活用します。

■学級数に応じた必要面積（特別支援学級を含む）

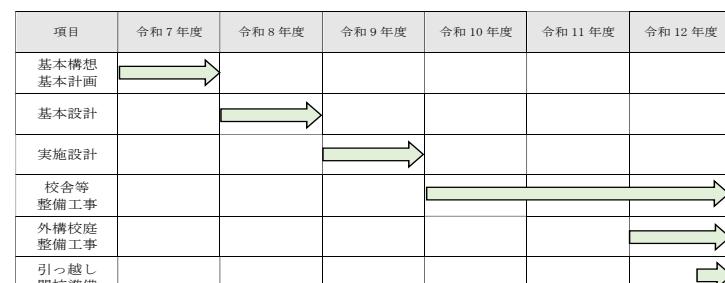
統合小学校 校舎：5,910 m²（給食調理施設は別途） 屋内運動場：1,258 m²

第7章 計画目標（全体計画のみ抜粋）

- ・河北中学校敷地内に統合小学校校舎を建設し、統合小学校を令和13年4月に開校する計画とする。
- ・統合対象校6校の教育の特色や地域との関係を継承する施設とともに、小学校文化と中学校文化を維持しながら、施設一体型小中一貫校として、小学校の児童・教職員、中学校の生徒・教職員が日常的に連携し、相互に活動の様子が感じられる環境とする。
- ・給食調理施設を新校舎と一体整備し、小学校および既存中学校に配膳できるよう計画する。
- ・敷地内に学校用プールは設置せず、町民プールを利用する計画とする。
- ・設計にあたっては、統合小学校開校時の中学校の既存校舎との関係を計画するとともに、将来、中学校校舎を改築した際にも小中学校の連携や給食配膳動線が維持されるよう計画し、その一段階として統合小学校の新築計画・設計を行う。

第8章 概算事業費・事業スケジュール

概算事業費について、校舎等整備、校庭整備、その他で54.5億円（今後の検討や物価の状況等により変動します。）を見込んでおり、令和13年4月の統合小学校開校を目指し、下記の事業スケジュールのとおり進めていきます。



※基本計画段階での目安であり、今後の検討や事業の進捗状況等により、変更の可能性有。